

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援 はっぴいち		R8年 2月 2日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	11月以降、新しい職員が増えた事で余裕を持って支援を行うことができています。	職員の休みが重複した際にも業務が円滑に進むように、さらに人員に余裕を持たせる事が望ましい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		来所時の流れ、一日の流れ等分かりやすく視覚化されている。玩具も片付けやすいように、所定の場所を写真で示している。	現状のやり方が利用児に定着しつつあるので、引き続きこのやり方が定着するようにかかわり続けていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		個別に学習支援を行う時は落ち着いて取り組める場所に移動している。刺激を少なくし、個別に対応できる「静の部屋」がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2	毎朝ミーティングで、前日の活動の反省や改善点、当日の活動内容で注意すること等話し合っている。	具体的な改善について期日を決めずに終わることがあるので、改善点については必ず期日を決め、期日までの改善（または具体的な改善の計画）ができるようにする。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		昨年度の評価表から改善できた点もあるが、引き続き改善途中の点もあるため、職員間で保護者等の意向を共有し、速やかに実現可能な案を提示する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	利用児の課題や困難さに限らず、達成できたことも職員全員で共有し、ともに喜べるように工夫している。	利用児に関する情報共有は進んでいるが、事業所運営に関する情報共有が徹底されない場面がある。共有方法について改善を重ねているので意識の徹底を図る。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		第三者評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			適時、事業所内で行っているが、今後は研修の機会を今よりもさらに増やしていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			ホームページに公開済み
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		保護者からの聞き取り、利用児の行動観察、場合によっては園から共有されている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	2	アセスメント後に必ず支援会議を行い職員全体の共通理解を深めている。	モニタリング前のカンファレンスが少なくないように感じられる。全体で積極的に情報を共有し、連携を強化していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		利用児の現在の課題や状況を具体的に把握し、課題のレベルを調整しながら様々なことに興味を持って挑戦できるよう支援している。支援計画に沿った取り組みが、数か月前より確実に増えている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインを意識して作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		学習支援など利用児に合わせて個別具体的に内容を設定する場合が多い活動については、複数の職員で話し合い、一人ひとりに合わせた目標設定や活動内容を考案している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝ミーティングで、当日の支援や役割分担について確認している。	役割分担は行われているものの、事前の検討は十分とは言えず、内容が浅くなる場面が見られる。活動前のロールプレイなどを増やしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	翌日のミーティングで前日の支援を振り返り、反省点等を共有している。	支援終了後は送迎や記録が続くため、当日の内に全体で振り返りや気付きを共有する時間を取るのが難しいため、週ごとの反省などより効率良く振り返りを行える工夫が必要である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1		児の行動理由が推察できないなど、記録が十分に残っていない日があり、支援内容の振り返りが不十分な時がある。職員の視点を増やせるよう、研修等の機会を設ける。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		6か月（場合によっては3か月など）以内に1回は見直ししている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者が参加してる。他職員も今後参加していく。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		家庭環境等の理由で支援が必要な児童については、迅速に受け入れ体制を整えている。他機関との連携も可能な限り連携出来るようにしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		地域の園や療育園などと定期的な連携を行っており、移行会議等にも参加している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	希望があれば情報共有を行う。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	4	2		現状では行っていない
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	特に系列の保育園（びいちふらわあ保育園）との交流が手厚く、イベントに参加させてもらうなどしている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		日々の記録や送迎時などで発達の状況や課題について共有している。気付きや変化は適時共有し、支援の充実を図っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	事業所では開催できていないが、情報提供は行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		保護者からの聞き取りを踏まえ、本人の現状の様子を考慮して作成してる。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		確認の上、同意をいただいている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		LINEや電話などで相談が受けられる様に体制を整備している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4		感染症等の観点から未実施。希望もあるのでいずれ開催したい。現状は他の相談支援事業所等が開催する父母の会などの案内に留まっている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		相談、申し入れに対しては事業所内で共有し、適切に対処している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		事業所ウェブサイト、Instagram、Googleビジネスなどを活用している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人名の入っている書類など、特に注意して取り扱っている。社内書類の取り扱いについて規定している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		意思決定支援について、研修資料を各自把握している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		地域住民への理解や関わりが十分に得られておらず、地域に開かれた運営が十分機能していない。地域理解が得られるよう、丁寧な説明を心がけている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		事前に計画を立て、各災害や事件等を想定した訓練等実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPを策定し周知している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		アセスメント時に確認を行い、当日の利用者に対しては体調確認（看護師による）を行っている。また、就園児に関しては園とも連携している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	厳密には医師の指示書ではなく、保護者の指示のもと対応を行っている。事業所が作成し、保護者の方に記入いただいたアレルギー対応の書面に基づき提供するおやつの原材料を確認し、職員間で共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成し、日々の安全管理のための具体的な項目も策定している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		特に契約時にお伝えしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		利用児への対応については年1回の虐待防止研修や、定期的に職員間で振り返りを行い、セルフチェックに努めている。虐待防止委員会内では研修について検討し、機会の確保に努めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		身体拘束について委員会を設置し、方針を定めている。職員は研修を行い、意識啓発をしている。保護者には契約時に説明している。	